



# 令和8年度 港区立中之町幼稚園経営計画

港区立中之町幼稚園長 酒井 正美

## 1. はじめに

港区立中之町幼稚園は、明治23年5月に開園し、令和8年度に136周年を迎えます。地域に愛され、見守られながら長い歴史と伝統を育んできた園です。

令和8年度は、昨年度より1学級増え、年少組、年中組、年長組がそれぞれ2学級の全6学級、計100名の在籍です。また、今年度より、区立幼稚園2園で「こども誰でも通園制度」が開始されました。中之町幼稚園は2園の内の1園として、週2日通う2歳児学年の幼児が2学級、計10名の受け入れが始まります。

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。幼稚園では、幼児期にふさわしい生活を展開する中で、遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、幼児の望ましい発達を支えます。

## 2. 幼稚園教育において育みたい資質・能力

文部科学省が示す「幼稚園教育要領」において、幼稚園教育では、**「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」**を一体的に育むこととされています。

幼児期の教育の基本である「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」を日々実践し、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育みます。

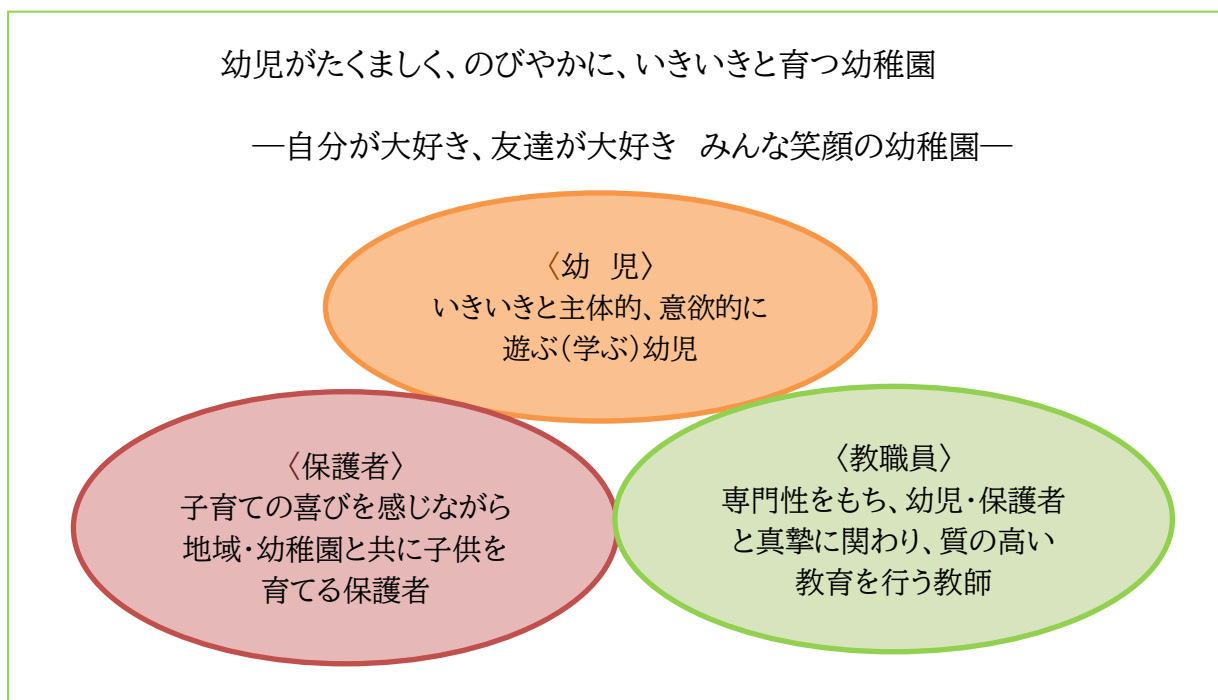
「遊びは学び 学びは遊び～やってみたいが学びの芽」です。「楽しそう」「やってみよう」と主体的に取り組む活動としての遊びの中に、学びがあります。また、「こうしてみよう」「どうしたらいいかな」と試行錯誤することも大切です。幼稚園では、幼児の実態に合わせ、「自ら関わりたくなる環境の工夫」「使いたくなる場やものの工夫」「遊びの伝承・人と人をつなぐ工夫」を行い、幼稚園教育において育みたい資質・能力である、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を育てていきます。

### 3 めざす幼稚園

#### <教育目標>

げんきな子    かんがえる子    なかよくする子    がんばる子

#### <目指す幼稚園像>



#### <目指す幼児像>

##### 2歳児

○幼稚園の場や、教師、保育士に親しみをもち、自分なりに遊ぶ幼児

##### 3歳児

○基本的な身の回りのことを自分でしようとする幼児

○安心感をもつてのびのびと自分の思いを表し、遊ぶ幼児

##### 4歳児

○自分のしたい遊びを見つけて取り組み、楽しさや満足感を味わえる幼児

○自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いを受け止めたりしながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえる幼児

## 5歳児

- 目的をもち粘り強く遊びに取り組み、思いや考えを実現する満足感を味わい、自信をもち行動できる幼児
- 友達と互いのよさを認め合いながら、共同して遊びや活動を進める楽しさややり遂げた達成感を味わえる幼児

### 3. 中期的目標(令和7年度～9年度)

- 幼児期において育みたい資質・能力と幼・小中一貫した教育の推進

幼児の未来を見据え、幼児期にどのような体験が必要なのか改めて考えるとともに、幼児教育において育みたい資質・能力を小学校以降の教育でさらにのばしていけるよう、子供たち学びの連続性について、小・中学校との連携を密にするとともに、架け橋期の教育の充実を図る。

- 中之町幼稚園の教育活動の確立

新園舎、新園庭の全てが整った環境での教育活動が3年目を迎える中、保育室や園庭の環境を生かした教育が展開されている。屋上の使い方、自然環境の充実、近隣の環境の利用、小・中学校との交流など、園内、園の近隣の環境を十分に生かした教育活動が展開されるようにし、中之町幼稚園の教育活動の基盤をつくる。

- 保護者・地域と協働し、愛され信頼される幼稚園づくり

136年の歴史の下、地域には卒園生や古くからの協力者が多数居住されている。学校運営協議会制度を生かし、地域コーディネーターを中心に地域の教育力や人材を存分に活用し、保護者・地域との協働体制をさらに深めていく。

- 専門性の向上を目指し、教育に情熱と使命感をもった教職員集団の育成

一人ひとりの教職員が自らの目標を明確にもち、専門性の向上を目指して前向きに職務を遂行し、互いに資質を高め合い、質の高い教育を実践する教職員集団を育てていく。

#### 4. 今年度の主な取り組み（① ②は今年度、特に重点として取り組む項目）

##### ①意欲的に遊ぶ(学ぶ)幼児の育成

関りたくなるような自然環境の工夫

使いたくなるような場やものの工夫

遊びの伝承・人と人をつなぐ工夫

タグラグビー⑤(講師)

サッカー④⑤(講師)

運動遊び③④⑤(講師)

赤坂中学校校庭・体育館・プールの使用

・令和7年度に「意欲的に遊ぶ幼児を育てる ～豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助～」を主題に、東京都教育委員会体育健康教育推進園及び港区教育委員会研究奨励園の実施を通して学んだことを基盤に、主体的に幼児が遊ぶ(学ぶ)環境の工夫を継続します。

・講師を招き、様々な体を動かして遊ぶ楽しさを味わい、日常の活動の中でそれらの楽しさを継続し、自ら体を十分に動かそうとする意欲や進んで運動しようとする態度を育てます。また、赤坂中学校の校庭、体育館、プールをお借りし、のびのびと体を動かす機会を設けます。

##### ②国際理解教育の基礎としての幼稚園

絵本読み聞かせ・お話し会

言葉で思いを伝え合う

劇遊び

歌・手遊び

季節の行事(節句・節分など)

伝統的な文化や遊び(挨拶・茶道・コマやカルタなど)

ネイティブティーチャー(遊びの中での関り・アクティビティ・One day travel day)

親子論語の会⑤(講師)

外国人幼児・保護者との関わりとアクティビティ

・港区の国際理解教育が目指す「真の国際人」の育成に向け、共生、伝統、言語の視点から、幼児期に育てたい力を育みます。

・日本の文化や伝統的な行事の経験を丁寧に行い、親しみをもつようにします。日本語がもつ楽しさや美しさに気付くようにし、言葉に対する感覚を豊かにしていきます。

・ネイティブティーチャー配置による英語活動では、日常の遊びの中でネイティブティーチャーに親しむとともに、遊びの中で英語に触れたり英語で表現したりする機会を

つくる。また、学級の活動として、手遊びや絵本、ダンスなどを通し英語に触れる機会を計画的に設ける。

・教師や友達と一緒に過ごす楽しさを味わうことを基盤に、ネイティブティーチャーや身近な外国人の友達や大人との関わりを通して、様々な国の人と関わる楽しさや、様々な国の文化や言葉に関心がもてるようにしていきます。

### ③赤坂アカデミーの連携の強化

赤坂アカデミーの連携を大切にし、保護者にも連携の様子を発信し、地域で教育を受ける意義を感じ取れるようにする。また、学校教育全体を貫いて明確化されている育成すべき資質・能力を理解し、架け橋期の教育の重要性の認識を小学校教員と深め、架け橋プログラムを活用、実践していく。

### ④地域の施設や教育力を生かす

幼児、保護者が地域の方への感謝の気持ちを持ち、地域への愛着を感じられるように地域コーディネーターとの連携を深め、地域の人材を活用した活動を大切にしていく。また、隣接する檜町公園や東京ミッドタウン内広場、赤坂学園などの施設を有効利用し、幼児にとって豊かな体験ができるようにする。また、様々な運動体験ができるようラグビーや体操、バランスボールなどの講師を招聘し多様な活動ができるようにする。

### ⑤子育ての楽しさ、喜びを感じられる保護者へ

保育参観や保護者会、懇談会などを利用し保護者に園の教育内容を伝え、幼児の成長を知らせるとともに、保護者が子育ての楽しさや喜びを感じられるようにする。また、園便り、学級便り、ホームページ、X、スマホアプリ「コドモン」などを活用して、家庭では見えにくい幼児の生活の様子を写真や説明で丁寧に伝えていくようにし、遊びの重要性や遊びから学んでいること、幼児期に必要なことなどを理解してもらえるよう発信に努める。

⑥3年間の見通しをもった指導内容の充実した幼稚園に

3年間の成長を見通し、各年齢で必要な経験内容を図る。環境の使い方、行事の在り方の工夫、実施方法の改善等、全教員によるカリキュラム・マネジメントを行い、指導内容の充実につなげる。

⑦チームとしての教職員集団づくり

園長、副園長、教職員が日常的のコミュニケーションを十分にとり、教職員同士が互いのよさを認め合い、フォローし合い協働できるチーム、心理的安心の高い職場を構築する。また、業務軽減できることを工夫し、働き方改革につながり効率よく働き、心身ともに健康で、明るく前向きに職務を遂行できるようにする。